

出前講座 報告書

開催日時	令和4年7月20日(水) 10時20分 ~ 12時00分		
開催場所	伊賀の国大山田温泉さるびの研修棟		
申請団体等名称	一般社団法人大山田温泉福祉公社		
テーマ	「地域振興」と「伊賀の国大山田温泉」との関わりについて 今後の「伊賀の国大山田温泉」運営のあり方について		
委員会名等	総務常任委員会		
出席議員	川上 善幸(委員長)、北山 太加視、森中 秀哲、福岡 正康、中谷 一彦、		
	百上 真奈、増田 雄	記録者	増田 雄

【講座・意見交換等の主な内容・対応等】

〔団体からのご意見〕

- ・地域にとって密接不可分の重要な施設であり、地域の温泉として持続的に公社で運営して行きたい。
- ・平成25年度・26年度に大赤字を出し、平成27年の公共施設最適化計画で縮小とされ、民営化を検討。
- ・指定管理者の公募の際に、我が公社1社のみ応募で指定管理者となった。
- ・洋食のシェフも入りレストランは好調であるが、コロナ禍で研修棟を利用する団体客がほぼない状態。
- ・収益性の良いキャンプ場が大はやりであり、7サイトに加えて新たな取組みとして8サイト増設をしたが、さらに造成中である。
- ・自然体験・農業体験のできる地域の空き家を利用した農泊(予定)を行い、温泉と連携したい。
- ・地域はもちろん、伊賀市のシンボルタワーとなるよう、そのために自立した経営を行う。
- ・サウンディング型市場調査が進み公募となった際には、最大限努力をする。

〔委員からの意見〕 (「→」の右は、その意見に対する団体からのご回答)

- ・地域住民への割引券の配布は? →コロナ禍前には実施し、全体で約2割(阿波では4~5割)の利用。
- ・路線バスを利用した客は? →ないことはないが少ない。週1~2回の問合せはある。車中心。
- ・外からの誘客と、市民の誘客との二本立てで。
- ・インターネット・SNSでの情報発信に加え、地域おこし協力隊の情報発信は?
→協力隊1代目は全体の取組みであったが、2代目は獣害対策に特化しており発信まで手が回らない。
- ・議会で譲渡を否決したが譲渡していたらどうだった?

(様式第2号)

→10年間は間違いなくできるという判断でのこと。

- ・譲渡を受けたり民営化すると固定資産税もかかってくる。コロナ禍で出していた給付金も出ない。
- ・マンパワーが必要。 →高齢化した雇用の入れ替えを積極的に行い、SNSに長けた若者も入った。
- ・温泉のリピーターは高齢者であり、高齢者が活きる仕組みと、若い方への発信を。
- ・市内・県内を除く利用者のほとんどは関西圏であり、関西伊賀人会での魅力発信を。
- ・キャンプ場はあちこちでやっているの、すでに遅れていると思う。
- ・組織の株式会社化は？ →(一社)と責任上の違いはないと考え、課題ではあるが当面考えていない。

自主経営できるかが、最大の課題である。

- ・(一社)なので利益を追求して良い。 →株式会社の方が金融機関から借りやすい等のメリットも。

公共的な側面も大きい。

地域貢献・社会貢献がこれからの企業に求められている。

- ・今のところ、市は売却の方針で進めている。

伊賀市議会議長 様

令和 4年 8月18日

議会出现前講座実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

総務常任委員長 川上 善幸